

機械器具 51 医療用嘴管及び体液誘導管

管理医療機器

単回使用クラスⅡ 処置キット 33961002

# JMSアンギオパック

再使用禁止

## 【禁忌・禁止】

再使用禁止

## \*\*【形状・構造及び原理等】

以下に示す構成品のうち、2品目以上を組み合わせたものからなり、任意に付属品を組み合わせる。組み合わせ内容については包装の表示に記載している。

## \*\*【構成品】

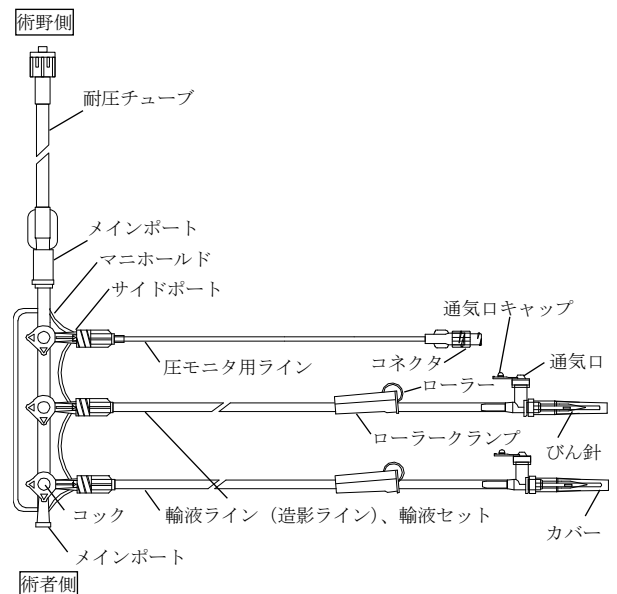
本書及び包装における名称	構成品名
耐圧チューブ	メリット ハイプレッシャー インジエクション ライン
マニホールド	ディスプレイザブルアンギオキット、ディスプレイザブルPTCAキット
輸液ライン（造影ライン）、輸液セット	JMS 輸液セット
圧モニタ用ライン	ディスプレイザブルアンギオキット、ディスプレイザブルPTCAキット
耐圧三方活栓	ディスプレイザブルアンギオキット、ディスプレイザブルPTCAキット
三方活栓	JMS 三方活栓
ヘモステシスバルブ	キュアコネクタ
エキステンションチューブ	JMS エキステンションチューブ
コントロールシリンジ	CCS ディスPOSEザブルアンギオシリンジ
メダリオンシリンジ、メダリオンPPシリンジ1mL	メダリオンシリンジ
シリンジ	JMSシリンジ、JMSシリンジ（マイクロ）
注射針	JMS注射針、一般針
プラスチックカニューラ	プラスチックカニューラ
アダプタキャップ	アダプタキャップ
モスキート鉗子	鉗子E
スカルペル	KAIスカルペル、KAI替刃メス
絆創膏	オーキューバンエコ NS
ガーゼ	尺角ガーゼ、NSガーゼ、クリンスカットⅡ、JMSガーゼ、藤本式尺角ガーゼ
X線ガーゼ	クリアーゼX
圧迫綿	JMS圧迫綿
綿球	NS綿球、綿球
ドレープ（覆布）	JMS覆布、JMS全面覆布
覆布テープ	覆布テープ
穴あきシート	JMS穴あきシート
インデフレーター	STMインフレーションデバイス
ブローブカバー	エコブローブカバー

## ＜付属品（医療機器非該当品（代表例））＞

本書及び包装における名称	構成品名
シート	シート
カップ	カップ
シャーレ	シャーレ
ピンセット	セッピン
タオルクランプ	タオルつまみ
コットンタオル	タオル
トレイ	トレイ
ステリーキャップ、IIカバー	造影管カバー
ボウル、ブルーボウル、ガイドワイヤーボウル	ボウル
三色シール	三色シール
ガウン	手術着
マスク	マスク
ヘアキャップ	ヘアキャップ
トルクデバイス	トルクデバイス
ダストパック	ダストパック

ハサミ	ガーゼシザーズ
スポンジスティック	スポンジスティック
タックテープ、JMSポア	テープ
コントローラーカバー	コントローラーカバー
廃液バッグ	廃液バッグ
PE袋	PE袋
吸水シート	吸水シート
プラスチックカンシ	プラスチックカンシ
インサータ	インサータ
器械台カバー	器械台カバー

## ＜あらかじめ接続を行う場合がある構成品（代表図）＞

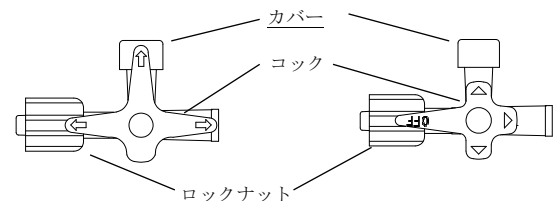


## ＜構造図（代表図）＞

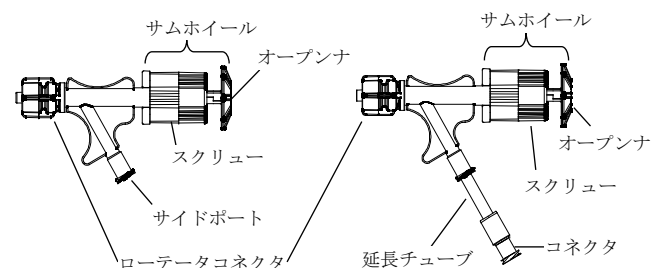
〔耐圧三方活栓、三方活栓〕

\*\*1. スリーバータイプ

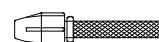
\*\*2. ワンバータイプ



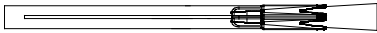
〔ヘモステシスバルブ〕



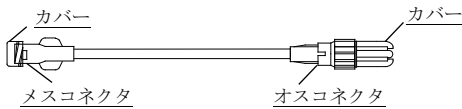
・トルクデバイス



・インサータ

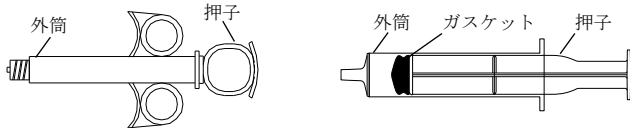


\*\* [エクステンションチューブ]

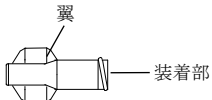


[コントロールシリンジ]

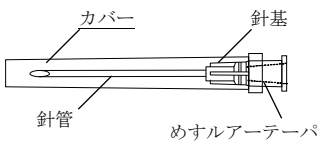
[メダリオンシリンジ、シリンジ、メダリオン PP シリンジ 1mL]



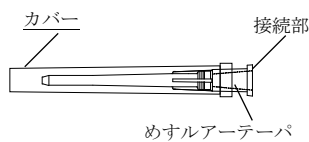
[アダプタキャップ]



\*\* [注射針]



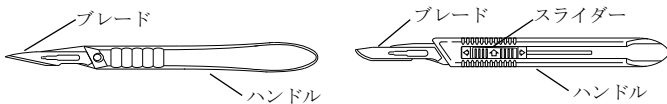
\*\* [プラスチックカニューーラ]



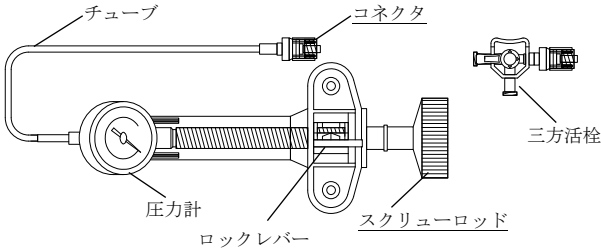
[スカルペル]

1. スカルペルタイプ

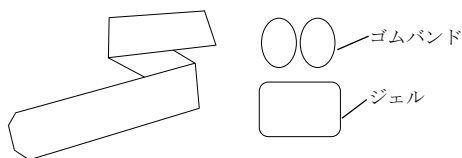
2. セーフティスカルペルタイプ



\*\* [インデフレーター]



[プローブカバー]



\*\* [原材料]

構成品	原材料
耐圧チューブ	ポリ塩化ビニル <sup>※1</sup>
マニホールド <sup>※2</sup>	ポリカーボネート、ポリアセタール
輸液ライン (造影ライン)、輸液セット	ポリプロピレン、ポリ塩化ビニル <sup>※1</sup> 、ポリカーボネート
圧モニタ用ライン	ポリ塩化ビニル <sup>※1</sup> 、ポリカーボネート
耐圧三方活栓 <sup>※2</sup>	ポリカーボネート、ポリアセタール
三方活栓 <sup>※2</sup>	ポリカーボネート、ポリプロピレン、ポリエチレン

ヘモステシスバルブ <sup>※2</sup>	ポリカーボネート、シリコーンゴム、ポリ塩化ビニル <sup>※1</sup>
エクステンションチューブ	ポリ塩化ビニル <sup>※1</sup> 、ポリカーボネート
コントロールシリンジ <sup>※2</sup>	ポリカーボネート、アクリロニトリルブタジエンスチレン共重合体、シリコーンゴム
メダリオンシリンジ <sup>※2</sup>	ポリカーボネート、アクリロニトリルブタジエンスチレン共重合体、シリコーンゴム
メダリオン PP シリンジ 1mL <sup>※2</sup>	ポリプロピレン、アクリル、シリコーンゴム
シリンジ <sup>※2</sup>	ポリプロピレン、スチレン系熱可塑性エラストマー
注射針 <sup>※2</sup>	ステンレス鋼、ポリプロピレン
プラスチックカニューーラ	ポリプロピレン
アダプタキャップ	ポリプロピレン
モスキート鉗子	ステンレス鋼
スカルペル	ステンレス鋼 <sup>※3</sup>
絆創膏	アクリル系粘着剤、レーヨン不織布、ポリエステル不織布、ポリオレフィン不織布
ガーゼ	綿、レーヨン、ポリエステル
X線ガーゼ	綿、ポリプロピレン、ポリエステル
圧迫綿	綿、ポリエチレン、ポリプロピレン、レーヨン、ポリエステル
綿球	綿
ドレープ (覆布)、穴あきシート	ポリエチレン、レーヨン系不織布、ポリプロピレン系不織布、アクリル系粘着剤、紙
カップ	ポリプロピレン
コットンタオル	綿
トレイ	ポリプロピレン、ポリスチレン、タルク
ボウル、ブルーボウル、ガイドワイヤーボウル	ポリプロピレン
ガウン	ポリプロピレン
マスク	ポリアミド
ヘアキャップ	ポリプロピレン、バルブ、ポリエステル、レーヨン不織布
スポンジスティック	ポリウレタン
タックテープ、JMSポア	アクリル系粘着剤

※1 DEHP規格はポリ塩化ビニル (可塑剤: フタル酸ジ (2-エチルヘキシル)) を使用している。DEHPフリー規格はポリ塩化ビニル (可塑剤: トリメリット酸トリ (2-エチルヘキシル)) を使用している。

※2 潤滑剤としてシリコーンオイルを塗布する場合がある。

※3 シリコーンでコーティングされているものもある。

《仕様》

\*\*1. 構成品

構成品	項目	性能・仕様
マニホールド <sup>※4</sup>	耐圧性	1. 38MPa (200psi) 3. 45MPa (500psi)
耐圧チューブ <sup>※4</sup>		6. 21MPa (900psi) 8. 27MPa (1, 200psi)
耐圧三方活栓 <sup>※4</sup>		3. 45MPa (500psi) 7. 24MPa (1, 050psi)
三方活栓		-20~150kPa
エクステンションチューブ		-20~150kPa
輸液ライン (造影ライン)、輸液セット		耐圧性
ヘモステシスバルブ	内径	2.7 mm (8F)
	挿入器具最大外径	2.6 mm (7.6F)
	耐圧性	0.3MPa
	トルクデバイス適用ガイドワイヤ径	φ0.25~0.41 mm
	インサータ内径寸法	φ0.70 mm
インデフレーター	最大許容圧力	3.03MPa (30atm)
	最大容量	25mL

※4 耐圧性は個包装のラベルを参照すること。

2. マニホールドにあらかじめ接続された構成品の接続部

構成品	項目	性能
輸液ライン (造影ライン) 輸液セット 圧モニタ用ライン	耐圧性	20kPa
	引張強度	15N

## 【使用目的又は効果】

カテーテル検査、血管の診断及び処置を行う経皮的血管内治療において使用する。

## 【使用方法等】

1. 包装から構成品を取り出す。
2. 消毒薬、綿球等を用いて、穿刺部位の消毒を行う。
3. 患者に覆布をかけ、穴がある場合は穿刺部位を露出させるように対象部位を覆う。

4. 以下の通り、マニホールドや各ラインのプライミングを行う。

- (1) 各ポートに接続されているすべてのラインが確実に接続されていることを確認する。

\*\* (2) 輸液ライン（造影ライン）、輸液セット（以下、輸液ライン等という）のローラーランプを閉じ、びん針のカバーを外す。

\*\* (3) 生理食塩液容器のゴム栓の所定の位置に輸液ライン等のびん針をびん針段差部に突き当たる深さまで垂直に刺通し、生理食塩液容器をガートルスタンドにかける。

\*\* (4) 点滴筒がある場合は、点滴筒を軽く指で押し離し、点滴筒の半分程度まで薬液をためる。

\*\* (5) 生理食塩液容器の所定の位置にエア針を垂直に刺通する。通気口付びん針の場合は、エア針は不要であるが、ソフトバッグ又は連結管を使用して複数の薬液にて輸液を行う場合は、びん針の通気ロキャップを閉じる。

(6) 輸液ライン等が接続されているマニホールドのコックを術野側が OFF になるように回す。

(7) コントロールシリンジ等をマニホールドの術者側メインポートに接続し、ローラーランプを緩め、押子を引いて輸液ライン等をプライミングする。プライミング終了後、コックを元の位置に戻し、ローラーランプを閉じる。

(8) もう一方の輸液ライン等についても、(2)～(7)と同様の操作でプライミングする。

(9) 圧モニタ用ラインに圧トランスデューサを接続し、圧トランスデューサのコネクタをモニタに接続する。

(10) 輸液ライン等が接続されているマニホールドのコックを術野側が OFF になるように回し、ローラーランプを緩め、輸液ライン等から生理食塩液をコントロールシリンジ内に充填する。

(11) ローラーランプを閉じ、コックを元に戻し、圧モニタ用ラインが接続されているマニホールドのコックを術野側が OFF になるように回す。

(12) 生理食塩液を充填したコントロールシリンジの押子を押し、圧モニタ用ライン内をプライミングする。プライミング後、コックを元の位置に戻す。

(13) 耐圧チューブをプライミングする。

(14) すべてのラインに空気が混入していないことを確認し、血管造影用カテーテルと接続する。

5. 以下の通り、圧測定を行う。

(1) 圧モニタ用ラインと術野側が通液するようにマニホールドのコックを回す。

(2) 圧測定を開始する。

(3) 圧測定終了後、コックを元の位置に戻す。

6. 以下の通り、造影剤の注入を行う。

(1) 造影剤を充填した輸液ライン等が接続されているマニホールドのコックを術野側が OFF になるように回し、ローラーランプを緩め、輸液ライン等から造影剤をコントロールシリンジ内に充填させる。

(2) ローラーランプを閉じ、コックを元の位置に戻し、造影剤の注入を行う。

7. 必要に応じて、バルーンカテーテル等による処置を行う。

8. 検査、処置終了後、カテーテル等を血管より抜去した後、圧迫綿等を用いて、カテーテル挿入部位を押さえて止血を行い、絆創膏等で穿刺部位を保護する。

9. 各構成品の使用方法は以下の通りである。

\*\* [輸液ライン（造影ライン）、輸液セット]

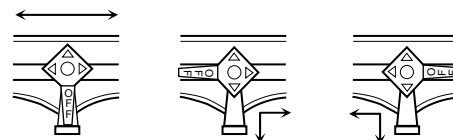
点滴量(滴下数)

$1 \pm 0.1 \text{ mL} = 20 \text{ 滴}$

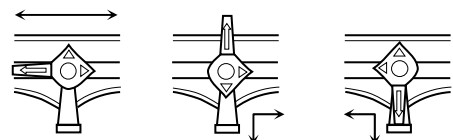
[マニホールド]

コックの操作方法

1. OFF コックタイプの流路方向



2. ON コックタイプの流路方向



[耐圧三方活栓、三方活栓]

1. 輸液ライン等との接続

\*\* (1) 輸液ライン等のオスコネクタ及びメスコネクタと本品を確実に接続する。

(2) コックを通液するラインの方向に回す。

2. 混注ポートからの混注

\*\* (1) コックを操作して混注ポートを閉じ、カバーを外す。このとき外したカバーは、汚染のないよう清潔に保つ。

\*\* (2) シリンジ又は輸液ライン等のルーア部を確実に接続した後、コックを操作して混注ポートを開く。

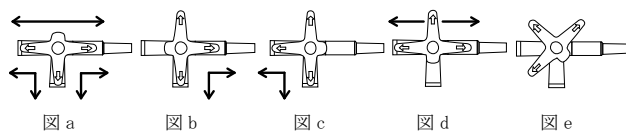
(3) 混注後、必要に応じて生理食塩液等でフラッシュを行い、混注ポートを閉じる。

\*\* (4) カバーを装着する。

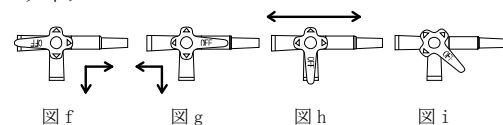
\*\*3. コック向きによる流路方向

下図の矢印方向に流路が開く。全方向の流路を閉じる場合は、図 e 又は図 iのように、コックを 45° の位置にする。

\*\* (1) スリーバートタイプ



\*\* (2) ワンバートタイプ



[ヘモステシスバルブ]

1. 本品のサイドポート又は延長チューブのコネクタに血圧測定、造影剤の注入、投薬等のためのラインを取り付ける。

2. 本品内の空気を除去するため、ローテータコネクタの先を閉鎖し、サムホイールのオープンナを押し込んで右に回して止血バルブを開き、サイドポート又は延長チューブのコネクタよりヘパリン加生理食塩液でフラッシュする。

3. 本品内の空気を除去した後、フラッシュしながら空気が混入しないようオープンナを左に回して止血バルブを閉め、ヘパリン加生理食塩液で満たす。

4. ガイディングカテーテルのハブに、ローテータコネクタを接続する。

5. インサータにガイドワイヤ先端部を挿入し、サムホイールのオープンナを押し込んで右に回して止血バルブを開き、インサータをオープンナから本品の奥まで挿入する。

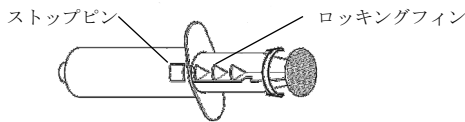
- ガイドワイヤを残した状態で、インサータのみを抜去し、スクリューを右に回して固定バルブを閉じる。
- トルクデバイスをガイドワイヤの適切な位置に取り付け、ガイドワイヤを目標の部位まで進め、トルクデバイスを取り外す。
- オープンナを押し込んで右に回して止血バルブを開き、カテーテルの重要部分を挿入後、止血バルブを閉じ、カテーテルを目標の部位まで進める。
- スクリューを右に回して固定バルブを閉じ、カテーテル等を固定する。

[エクステンションチューブ]

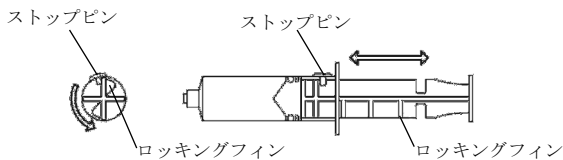
- 包装から本品を取り出す。
- \*\*2. メスコネクタ等のカバーを外し、他の構成品又は医療機器のオスコネクタと確実に接続する。
- \*\*3. 先端のカバーを外し、他の構成品又は医療機器と接続する。

[コントロールシリンジ、メダリオンシリンジ]

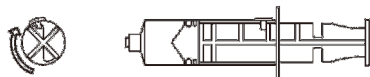
- 一般的な使用方法
  - 本品の押子を完全に押し込む。
  - 押子を引いて造影剤等を吸引する。
  - 吸引後、外筒内部の空気を除去する。
  - 外筒先端とマニホールド又はカテーテル等を接続し、押子を押し込んで造影剤等を注入する。
- バックロックを用いて吸引する方法 (ストップピン付)
  - メダリオンシリンジ先端から薬液等を吸引する。
  - 陰圧による押子の戻りを防ぐために、押子に付設しているロッキングフィンがストップピンにかみ合うように押子を時計回りに回転させロックする。



1) ロックせずに使用する場合



2) ロック後



[シリンジ]

- 注射針等と接続する。
- 押子を押し、外筒内部から空気を完全に押し出す。
- \*\*3. 接続した注射針等のカバーを外し、薬液等を吸引する。
- 静脈等に穿刺し、薬液等を注入する。

[注射針]

- \*\*1. 本品のめすルアーテーパをシリンジ等に、確実に接続する。
- 医療機関で定められた方法に従い、穿刺部位の消毒を行う。
- \*\*3. 針先を傷つけないように、カバーをまっすぐ引いて取り外す。
- 穿刺部位に穿刺し、薬液等の注入、採液を行う。
- 針を抜去後、必要な場合は、止血を行う。

[プラスチックカニューラ]

- \*\*1. 本品のめすルアーテーパをシリンジ等に確実に接続する。
- \*\*2. カバーをまっすぐ引いて取り外す。
- 本品をアンプル内に挿入し、薬液を吸引する。
- \*\*4. 本品をシリンジ等から取り外す。

[アダプタキャップ]

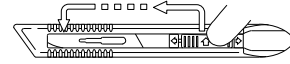
- 本品の翼を持ち、シリンジ等に回転させながら、確実に装着する。
- 使用後は、翼を持ち、回転させながら取り外す。

[スカルペル]

- 通常の手術方法に従い、本品の操作を行う。
- セーフティスカルペルタイプのブレードの突き出し、収納の各操作方法については次項の通りである。

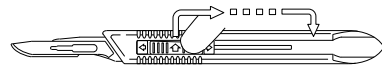
(1) ブレードの収納方法

スライダ部分を指で保持した状態で上に持ち上げ、そのまま前に押し出す。その際、スライダ部分が完全に固定されていることを確認する。



(2) ブレードの収納方法

スライダ部分を指で保持した状態で上に持ち上げ、そのまま後ろに戻す。その際、スライダ部分が完全に固定されていることを確認する。



[絆創膏]

創部にパッド部分をあて周りのテープ部分で固定する。

[ガーゼ、X線ガーゼ]

創部又は外科切開部の処置に使用する。

[圧迫綿]

穿刺部を押さえるようにしてテープ等で固定する。

[ドレープ (覆布)、穴あきシート]

- テープ付規格の場合は裏面の固定用テープの剥離紙をはがす。
- 対象部位を覆う。穴がある規格の場合は、手術部位等の露出される部分が見えるように覆い、裏面の固定用テープ等で固定する。

[覆布テープ]

裏面の剥離紙をはがし、覆布に貼付し、覆布同士を貼り合わせる。

[インデフレーター]

- \*\*1. コネクタ又は三方活栓から、造影剤 (生理食塩水を加えたものを含む)を吸引する。
- \*\*2. 圧力計が上になるように本体を上に向けて、スクリューロッドを押して、シリンジ内及びチューブ内の空気を完全に取り除く。
- \*\*3. シリンジ内の造影剤の量を調節する。
- \*\*4. コネクタ又は三方活栓とバルーンカテーテルを空気が入らないように注意しながら、確実に接続する。
- \*\*5. 圧力計を下に向け、確認しながらスクリューロッドを操作し、加圧する。
- \*\*6. 加圧後、減圧する場合は、ロックレバーを解除し、スクリューロッドを引く。

[プローブカバー]

- 包装からプローブカバー、ゴムバンド及び付属されている場合はジェルを取り出す。
- プローブカバーが折りたたまれた状態で、開口部から内部にジェルを適量注入する。

3. プローブ先端部をプローブカバー内部に装着し、プローブとプローブカバーの間の空気抜き、しわ取りを行う。また、プローブカバーのシール部分が、超音波振動子の邪魔にならないよう、位置を調節する。
4. プローブカバー開口部を引っ張るように伸ばし、プローブ及びケーブルをプローブカバーで覆い、ゴムバンドで固定する。
5. 必要に応じてゴムバンドを追加し、固定する。
6. 使用後は、装着と逆の手順でプローブカバーを外す。プローブの洗浄は装置の使用方法に従う。

## \*\*<使用方法等に関連する使用上の注意>

〔輸液ライン（造影ライン）、輸液セット〕

### 1. プライミングについて

- (1) 薬液容器のゴム栓にびん針を刺通する際は、次の事項に注意すること。

- 1) びん針を斜めに刺通したり、刺通中に横方向への力を加えたりしないこと。〔びん針の曲がり、破損が生じるおそれがある。〕
- 2) ゴム栓への刺通はゆっくり、まっすぐ行き、同一箇所を繰り返し刺通しないこと。〔刺通部分を削り、針管内に詰まりが生じる、又はゴム片が混入するおそれがある。〕
- 3) びん針の段差部分まで薬液容器に刺通すること。〔刺通不十分な場合、外れ、空気混入等が生じるおそれがある。〕

- (2) エア針が必要な薬液容器の場合は、次の事項に注意すること。

- 1) 通気口付びん針の通気口キャップを開けて使用すること。

- \*\*2) 連結管を使用する場合はびん針の通気口キャップを閉じ、連結先の薬液容器にエア針を刺通すること。〔びん針の通気口キャップを開けて使用した場合、連結先の薬液が残存するおそれがある。〕

- \*\* (3) エア針が不要な薬液容器の場合は、びん針の通気口キャップを閉じて使用すること。〔びん針の通気口キャップを開けて使用した場合、本品内に空気が混入するおそれがある。〕

- \*\* (4) びん針の通気口キャップを閉じる場合は、通気口とキャップの凸部の位置を合わせてから押し込むこと。〔位置がずれた状態で押し込んだ場合、通気口付近に破損が生じ、気密性が保てなくなるおそれがある。〕

- (5) 点滴筒については、次の事項に注意すること。

- \*\*1) 薬液は室温になじませてから使用すること。点滴筒内が泡立つようなプライミング操作を行わないこと。併用する医薬品及び医療機器の電子添文に指定がない場合は、点滴筒の半分程度まで薬液をため、液面低下に注意すること。〔ライン内に空気が発生、混入するおそれがある。〕

- 2) プライミング後、点滴筒を横にしたり、傾けたりしないこと。また、薬液容器を交換する際、及び輸液中は点滴筒内を空にしないこと。〔ライン内に空気が混入し、薬液が流れにくくなるおそれがある。〕

### 2. クランプ操作について

- \*\* (1) 鉗子及びローラークランプはチューブと硬質部品の接合部では操作しないこと。〔チューブが噛み込まれ、破損する、又は接合部が外れるおそれがある。〕

- (2) チューブを鉗子等で傷つけないように注意すること。〔鉗子の根元又は先端で閉塞すると、チューブが破損し液漏れ、空気混入等が生じるおそれがある。〕

- \*\* (3) 鉗子及びクランプを使用した場合は、輸液再開時にクランプ部分のチューブの閉塞、変形に注意すること。

- (4) ローラークランプの調節を行う際は、ローラーに対して斜め方向に力を加えないこと。〔ローラーの破損や脱輪が生じるおそれがある。〕

### 3. 点滴量について

- (1) 輸液開始時には、輸液状態（滴の落下、点滴筒内の液面、輸液の減り具合）を必ず確認すること。また、輸液中にも同様な確認を定期的に行うこと。

- (2) 薬液等の種類により、一滴あたりの容積が変わるおそれがあるので注意すること。

〔マニホールド、耐圧三方活栓〕

1. 使用前にコック等が正常に機能することを確認すること。
2. 薬液等が流れる方向にコックが操作されていることを確認すること。

〔三方活栓〕

- \*\*1. 使用前はカバリの緩みや外れがないことを確認してから使用すること。
2. 本品から薬液等を混注する場合は、空気混入に注意すること。
- \*\*3. 混注ポートは混注又は吸引前に消毒用アルコール綿等で消毒すること。〔細菌混入のおそれがある。〕
4. 混注ポートより持続投与を行う場合は、オスコネクタがロックタイプのものを使用すること。〔接続部が外れるおそれがある。〕
- \*\*5. 他の医療機器を混注ポートに接続する場合は、次の事項に注意すること。
- \*\* (1) 接続前に混注ポート側の流路を閉じること。〔薬液等が意図しない方向へポーラス注入されるおそれがある。〕
- \*\* (2) 混注ポートの本体を把持すること。〔十分な力が加わらず接続できないおそれがある。〕
- \*\*6. シリンジ等で混注又は吸引を行う場合は、ゆっくりと操作すること。〔破損、液漏れ、空気混入が生じるおそれがある。〕
- \*\*7. 他の医療機器を混注ポートから外す際は、本体を把持し、他の接続部が緩まないように注意すること。
8. 混注後は必要に応じて生理食塩液等でフラッシュを行うこと。〔薬液の一部が残存するおそれがある。〕
9. ワンバータイプを使用する場合は、コックを180°以上回転させないこと。〔コックが浮き上がり、液漏れが生じるおそれがある。〕
10. コックに対し、引き抜く方向に過度な負荷を加えないこと。〔コックが外れ、液漏れが生じるおそれがある。〕
- \*\*11. シリンジを混注ポートに接続したままの状態では放置しないこと。〔他の混注ポートから薬液を投与する際、シリンジ内に薬液が逆流し、シリンジの押子が外れるおそれがある。また、シリンジ内の薬液が過量投与されるおそれがある。〕

〔輸液ライン（造影ライン）、輸液セット、エクステンションチューブ〕

1. 個包装を開封する際は、はさみ等の刃物を使用しないこと。〔本品を傷つけ、液漏れが生じるおそれがある。〕
2. コネクタを他の構成品又は医療機器と接続する場合は、次の事項に注意すること。

- \*\* (1) 過度な締めつけをしないこと。〔コネクタが抜けにくい、又はコネクタが破損するおそれがある。〕

- \*\* (2) コネクタのテーパ部に薬液等が可能な限り付着しないように注意すること。〔接続部に緩み等が生じるおそれがある。〕

- \*\* (3) ロックナットがある場合は、ロックナットの傾きや回転不足に注意し、確実にかん合させること。〔接続が不十分な場合、外れ、液漏れ及び空気混入が生じるおそれがある。〕

〔ヘモステシスバルブ〕

1. 本品内の空気を完全に除去した状態で使用すること。
2. 注入、吸引操作を行う場合は、本品の固定バルブが確実に閉まっていることを確認すること。〔圧力の変化により、注入液等の漏れや空気の混入が生じるおそれがある。〕
3. カテーテル等を本品に挿入・抜去する場合は、止血バルブ及び固定バルブを完全に開けた状態で行うこと。〔本品及びカテーテル等が破損するおそれがある。〕

4. カテーテル等を固定する場合は、固定バルブで過度に締め付けないよう注意すること。[カテーテル等が破損するおそれがある。]
5. カテーテル等を挿入・抜去する場合、少しでも異常を感じたら、その原因を確認すること。[カテーテル等が破損するおそれがある。]

[コントロールシリンジ、メダリオンシリンジ]

1. 本品の使用前には、適切な機能を妨げるような破損箇所、その他異常がないことを確認すること。
2. 本品を用いて造影剤を注入する際は、空気がシリンジ内に混入していないことを確認すること。空気が混入している場合は、空気を完全に除去すること。
3. 他の構成品又は医療機器と接続する場合は、緩みや外れが生じないようにしっかりと接続すること。

[シリンジ、メダリオン PP シリンジ 1mL、注射針、プラスチックカニューラ]

1. シリンジ又はメダリオン PP シリンジ 1mL と注射針等を接続する際は、次の事項に注意すること。
  - (1) 接続部に対し、過度な締めつけや横方向への負荷を加えたりしないこと。[接続部の破損により液漏れ、空気混入が生じるおそれがある。]
  - (2) シリンジ又はメダリオン PP シリンジ 1mL の接続部に薬液が付着した場合は、薬液をふきとり注射針等と接続すること。[接続部に緩みが生じる。]

\*\* (3) 注射針等のカバーを付けたまま接続すること。

\*\* (4) 緩みや外れが生じないように確実に接続し、漏れ等の異常がないことを確認すること。

2. シリンジ又はメダリオン PP シリンジ 1mL の押子を引く際は、次の事項に注意すること。
  - (1) 外筒印刷部の目盛りを超えて引かないこと。[押子が外筒から外れ、液漏れが生じるおそれがある。]
  - (2) 押子をゆっくり、まっすぐ引くこと。[強く引く、ねじりながら引いた場合は、外筒との密着性が低下し、液漏れやガスケットの外れが生じるおそれがある。]
3. 外筒部を強く握る等、圧迫するような力を加えないこと。[ガasketと外筒との密着性が低下し、液漏れ、空気混入が生じるおそれがある。]
4. シリンジ又はメダリオン PP シリンジ 1mL の外筒印刷部については次の事項に注意すること。
  - (1) 目盛を強くこすらないこと。[目盛が消えるおそれがある。]
  - (2) 薬液等が付着した状態で放置しないこと。[目盛が剥離するおそれがある。]

\*\*5. 注射針やプラスチックカニューラのカバーを外す際は、次の事項に注意すること。

- (1) ねじる又は傾けるような力を加えないこと。[本品がシリンジ等から外れるおそれがある。]

\*\* (2) 注射針は針先がカバーに接触しないようすること。[針先が変形するおそれがある。]

6. 注射針をバイアルや薬液容器等のゴム栓に刺通する際は、次の事項に注意すること。
  - (1) 本品を斜めに刺通したり、刺通中に横方向への力を加えたりしないこと。[針管の変形や針基の破損等が生じるおそれがある。]
  - (2) ゴム栓への刺通はゆっくり、まっすぐ行い、同一箇所を繰り返し刺通しないこと。[刺通部分を削り、針管内に詰まりが生じる、又はゴム片等が混入するおそれがある。]
7. 注射針はアンブル等の薬液容器壁面に針管を接触させないように注意すること。[針先が変形するおそれがある。]
8. プラスチックカニューラはアンブルの切り口に本品の先端部が触れないように注意すること。[先端部が破損するおそれがある。]

9. 注射針は誤穿刺に注意すること。

[アダプタキャップ]

1. 装着部に薬液等が可能な限り付着しないように注意すること。[装着部に緩みが生じるおそれがある。]
2. 本品を装着する際は、過度な締めつけや横方向の負荷を加えないこと。[本品が外れない、本品又は装着相手が破損するおそれがある。]
3. 本品を装着した状態で過度な負荷をかけないこと。[装着が緩み、本品が外れたり、内容液が漏れたりするおそれがある。]

[絆創膏]

本品をはがす際は、皮膚を傷めないよう体毛の流れに沿ってゆっくりはがすこと。

\*\* [インデフレーター]

加圧前に、シリンジ及び耐圧チューブ内に空気がないことを確認すること。

[プローブカバー]

1. ジェルの注入後、漏れが生じていないことを確認すること。
2. ジェルは適量を使用すること。[量が少ないと画像が不鮮明になるおそれがある。]
3. ゴムバンドは、ずれや落下等が生じないようにしっかりと固定すること。]
4. プローブへの装着は、本品の包装の上で行うこと。

## 【使用上の注意】

### 〈重要な基本的注意〉

1. 使用中は接続部の緩み、液漏れ及び破損等に注意し、定期的を確認すること。
2. ポリカーボネートを使用している構成品については、脂肪乳剤及び脂肪乳剤を含む医薬品、ヒマシ油等の油性成分、界面活性剤又はアルコール等の溶解補助剤等を含む医薬品を投与する場合及びアルコールを含む消毒剤を使用する場合は、ポリカーボネート製のコネクタ等のひび割れについて注意すること。[薬液によりコネクタ等にひび割れが生じ、血液及び液漏れ、又は空気混入等のおそれがある。特に、全身麻酔剤、昇圧剤、抗悪性腫瘍剤及び免疫抑制剤等の投与では、必要な投与量が確保されず患者への重篤な影響が生じるおそれがある。なお、ライン交換時の締め直し、過度な締めつけ及び増し締め等は、ひび割れの発生を助長する要因となる。]
3. ひび割れが確認された場合は、直ちに新しい製品と交換すること。
4. DEHP規格の場合、ポリ塩化ビニルの可塑剤であるフタル酸ジ(2-エチルヘキシル)が溶出するおそれがある。
5. 構成品に衝撃を与えないこと。[破損するおそれがある。]

[耐圧チューブ]

チューブの折れ又はねじれ等に注意すること。

[輸液ライン (造影ライン)、輸液セット]

1. チューブの接合部を曲げたり、チューブを過度に引っ張ったり、押し込むような負荷がかからないようにすること。[接合部の外れ及び液漏れ、チューブの破損等が生じるおそれがある。]
2. 通気口付びん針を通して油性成分、界面活性剤、アルコールを含む医薬品を投与する場合は、通気口の通気不良や液漏れがないことを定期的に確認すること。
3. 発泡性医薬品を使用する場合は、使用中の点滴筒液面に注意すること。[液面が低下するおそれがある。]

[ヘモステイシスバルブ]

1. サムホイールを軽く押し込みながら回して、バルブの開閉が確実に行われることを確認すること。
2. 固定バルブを開ける場合、抵抗を感じたらそれ以上回転させないこと。[本品が破損するおそれがある。]
3. 止血バルブは、血液等の漏れを完全に防止できるものではないため、使用時に注意すること。[液漏れを生じるおそれがある。]
4. 止血バルブが閉じなくなった場合、固定バルブの開閉操作で出血量を調節すること。
5. 定期的にヘパリン加生理食塩液でフラッシュすること。[造影剤・血液等が固着し、止血バルブ又は固定バルブが機能不全になるおそれがある。]長時間放置する場合は、本品内及びバルブ部をヘパリン加生理食塩液で満たしておくこと。
6. 他の構成品と接続する場合は、過度な締めつけをしないこと。[接続部が破損するおそれがある。]
7. 有機溶剤、脂肪乳剤、油性成分を含有する医薬品を併用しないこと。[本品が破損するおそれがある。]

[エキステンションチューブ]

チューブの接合部を曲げたり、チューブを過度に引っ張ったり、押し込むような負荷がかからないようにすること。[接合部の外れ及び液漏れ、チューブの破損等が生じるおそれがある。]

[コントロールシリンジ、メダリオンシリンジ]

本品を脂肪乳剤及び脂肪乳剤を含有する製剤の投与時に使用しないこと。[本品が破損するおそれがある。]

[シリンジ、メダリオン PP シリンジ 1mL]

1. 造影剤等の高压注入には使用しないこと。[液漏れ又は破損するおそれがある。]
2. シリンジは冷蔵保存等低温下での取扱いに注意すること。[低温下では、本品の耐衝撃性が低下する。]

[アダプタキャップ]

1. 本品を鉗子等で挟まないこと。[破損が生じ、液漏れ、空気混入を引き起こすおそれがある。]
2. 本品は菌の繁殖防止及びシリンジ等の内容液の効力維持に有効なものではない。

[スカルペル]

1. ブレードを出す際には、刃先に注意しながら取り出すこと。
2. 本品の刃先に触れないよう取扱いには注意すること。[刃先は鋭利であり触れるとけがをすおそれがある。]
3. セーフティスカルペルタイプは、使用後ブレードをハンドルの中に収納し、必ず完全に固定された状態で処理すること。

[絆創膏]

1. 本品の使用中に貼付部位で感染又は皮膚障害（発疹、発赤、水疱、皮膚剥離、そう痒感等）と思われる症状が現れた場合や、創部に臨床的感染が起きた場合には、使用を中止し、適切な治療を行うこと。
2. 本品の使用中に、ぬれたり汚れたりした場合や、血液や浸出液などのにじみが見られた場合は、直ちに新しい製品と貼りかえること。

[ドレープ（覆布）、穴あきシート]

可燃性消毒薬を用いる場合は、消毒薬の乾燥・気化拡散を確認したのちに、本品で対象部位を覆うこと。[乾燥・気化拡散が不十分な場合、本品下でアルコール蒸気が充満し、電気メスの使用により、引火するおそれがある。]

\*\* [インデフレーター]

- \*\*1. 圧力計に衝撃を与えないこと。[圧力計が故障するおそれがある。]

- \*\*2. 消毒用アルコール等の有機溶剤を含まない薬剤及び油性造影剤、脂肪乳剤を含む薬剤を使用しないこと。[本品が破損するおそれがある。]

## 〈相互作用（他の医薬品・医療機器等との併用に関すること）〉

併用注意（併用に注意すること）

\*\* [インデフレーター]

造影剤に変色が認められた場合は使用を中止すること。[本品の部品と造影剤が反応して、造影剤が緑色に変色するおそれがある。]

[プローブカバー]

装着するプローブの大きさに適切なサイズを使用すること。[プローブより小さなサイズの本品を使用した場合、破損が生じるおそれがある。]

## 〈不具合・有害事象〉

1. その他の不具合

[輸液ライン（造影ライン）、輸液セット、エキステンションチューブ]

空気混入、漏れ、外れ、緩み、固着、変形、亀裂、詰まり、破損

[耐圧チューブ]

空気混入、漏れ、変形、破損

[マニホールド、耐圧三方活栓、プローブカバー]

漏れ、破損

\*\* [三方活栓]

空気混入、漏れ、破損、外れ、緩み、固着、亀裂、破損、過量投与

[ヘモステイシスバルブ]

空気混入、漏れ、破損、バルブ機能不全

[コントロールシリンジ、メダリオンシリンジ]

空気混入、外れ、緩み、破損

[シリンジ、メダリオン PP シリンジ 1mL]

空気混入、漏れ、外れ、緩み、印刷消え、破損

[注射針]

空気混入、漏れ、外れ、緩み、誤穿刺、詰まり、変形、破損

[スカルペル]

けが

[プラスチックカニューラ、アダプタキャップ]

空気混入、漏れ、外れ、緩み、破損

[ドレープ（覆布）、穴あきシート]

引火

\*\* [インデフレーター]

空気混入、漏れ、圧力計の作動不良、圧力計の故障、破損、変色、接続不良

2. その他の有害事象

[絆創膏]

発疹、発赤、水疱、皮膚剥離、そう痒感、感染

### 〈その他の注意〉

[ドレープ（覆布）]

消毒用アルコールは可能な限り、本品に付着しないよう注意すること。[本品の染料が身体に付着するおそれがある。]

### 【保管方法及び有効期間等】

#### \*\*〈有効期間〉

使用期限：3年 [自己認証(当社データ)による]

包装の使用期限欄を参照すること。

#### \*【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者

株式会社ジェイ・エム・エス

問い合わせ先

TEL 0120-923-107